

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (VMware、ラックサーバ/NR1000 用) ご使用上の留意事項 / マニュアル修正事項

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (VMware、ラックサーバ/NR1000 用) (以降 Cloud Ready Blocks Enterprise) に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、Cloud Ready Blocks Enterprise のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるマニュアルをご覧になる際は、下記に示します内容をあわせてお読みくださいますよう、お願いいたします。

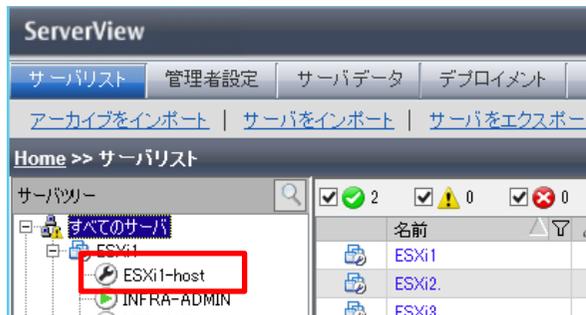
2017 年 7 月
富士通株式会社

■ ご使用上の留意事項

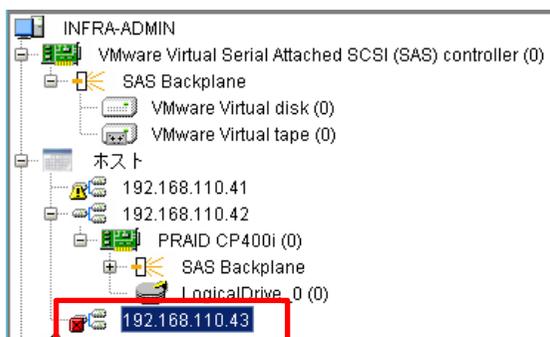
1. ハードウェアの監視 機能が一時的に監視不可となる場合の留意事項

ServerView Operations Manager (以降 SVOM) および ServerView RAID Manager (以降 SV RAID) によるハードウェアの監視において、ESXi の状態が表示されない場合があります。

【SVOM の例】



【SV RAID の例】



以下の対処を行うことで改善されます。

ESXi のダイレクトコンソールに管理者でログインし、以下のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/sfcbd-watchdog restart
```

本対処については、その他の監視ソフトウェアについても、ハードウェアを監視する際に ESXi の状態が表示されない場合に改善効果が見られる場合があります。

2. コンバージド・ネットワーク・アダプターのアップデートに関する留意事項

コンバージド・ネットワーク・アダプターのファームウェア、ソフトウェア、ドライバのアップデートについては、ServerView Update Manager をご使用いただけません。

コンバージド・ネットワーク・アダプターのファームウェア、ソフトウェア、ドライバのアップデートについては、アップデートモジュールをダウンロードし、アップデートモジュールに含まれている手順書に従いアップデートの実施をお願いします。

修正済みの項目

1. 【修正済み】ServerView Infrastructure Manager のログ監視・収集機能に関する制限事項

ServerView Infrastructure Manager (以降 ISM) による管理兼業務サーバ、及び業務専用サーバのログ監視及び、ログ収集機能は使用できません。管理兼業務サーバ、及び業務専用サーバのログは以下の方法にて手動で採取してください。

なお、本機能に対する修正対応については、弊社「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks」ページ、または、Support Desk-Web の製品ページでお知らせいたします。

- OS ログ (VMware):
vSphere Client より、VMware ESXi サーバに関する診断情報の収集を採取。収集ファイルを展開し、下記ファイルを採取してください。
/var/log/vmkernel.log
- SEL:
iRMC より、System Event Log を採取してください。

※ ISM 1.3.0.b 以降で問題が解決されています。(Support Desk-Web の製品ページより提供)

本製品では ISM 1.3.0.b 以降では、ログ収集機能の設定で「ログ収集機能で転送ログを受信する方法」に設定変更が必要となります。ISM 1.3.0.b に含まれるドキュメントに従って設定を実施してください。同時公開される、ServerView Profile Manager Service V1.20 の適用が必要となります。

2. 【修正済み】ServerView Operations Manager の SSL 設定変更に関する制限事項

ServerView Resource Orchestrator (以降 ROR) をインストールされた環境において、SVOM の SSLv2/SSLv3 の設定を有効化しておりますが、本設定については変更できません。変更した場合、ROR の GUI にアクセスできないなどの問題が発生します。

※ SVOM7.02.02 以降で問題が解決されています。

なお、SVOM7.01.03 から 7.02.02 以降へアップデートする場合には、SVOM をアップデートする前に以下の手順により SVOM の SSL 無効化を実施してください。

<SVOM の SSL 無効化手順>

1) SVOM、JBoss のサービスを以下の順に停止します。

- ServerView Download Service
- ServerView Services
- ServerView JBoss Application Server 7

2) 以下のファイルを開きます。

```
>notepad "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥opens¥config¥config.ldif"
```

3) 下線で示した以下の行(8行)の冒頭の「#」を削除して、上書き保存します。

```
          :  
# This HTTPS configuration disables SSLv3 in order to  
# prevent the "POODLE" attack, and restricts the cipher  
# suites to ciphers, which are safe with respect to "BEAST"  
# attacks.  
# ds-cfg-ssl-cipher-suite: TLS ECDHE RSA WITH NULL_SHA  
# ds-cfg-ssl-cipher-suite: TLS ECDHE RSA WITH RC4_128_SHA  
# ds-cfg-ssl-cipher-suite: TLS ECDH anon WITH NULL_SHA  
# ds-cfg-ssl-cipher-suite: TLS ECDH anon WITH RC4_128_SHA  
# ds-cfg-ssl-cipher-suite: TLS EMPTY RENEGOTIATION INFO_SCSV  
# ds-cfg-ssl-protocol: TLSv1  
# ds-cfg-ssl-protocol: TLSv1.1  
# ds-cfg-ssl-protocol: TLSv1.2  
  
dn: cn=LDIF Connection Handler,cn=Connection Handlers,cn=config  
          :
```

4) 以下のファイルをワードパッドで開きます。

```
C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥jboss¥standalone¥configuration¥standalone.xml.orig
```

5) [検索]を選択し、「TLS_EMPTY_RENEGOTIATION_INFO_SCSV」を入力します。その後、[次を検索]をクリックし、該当行を検索します。該当行の直下の行に、以下に下線付きで示すような行(protocol="TLSv1")を追記して、上書き保存します。

```
<connector name="https" protocol="HTTP/1.1" scheme="https" socket-binding="https"  
secure="true">  
  <!-- This HTTPS configuration disables SSLv3 in order to  
    prevent the "POODLE" attack, and restricts the cipher  
    suites to ciphers, which are safe with respect to "BEAST"  
  attacks. -->  
  <ssl name="https"  
  
    cipher-suite="TLS_ECDHE_RSA_WITH_NULL_SHA,TLS_ECDHE_RSA_WITH_RC4_128_SHA,TLS_EC  
    DH_anon_WITH_NULL_SHA,TLS_ECDH_anon_WITH_RC4_128_SHA,SSL_RSA_WITH_RC4_128_MD,
```

```
SSL_RSA_WITH_RC4_128_SHA,TLS_EMPTY_RENEGOTIATION_INFO_SCSV"  
    protocol="TLSv1"  
    password="changeit"  
    certificate-key-file="../standalone/svconf/pki/keystore"  
    verify-client="false"/>  
</connector>
```

引き続き SVOM のアップデート手順を実施してください。

3. マニュアル修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware、ラックサーバ/NR1000 用) 利用ガイド」(C122-0026-01)への訂正事項

■ 「6.4.3 サーバ(ホットプラグ非対応部品)」の「■ 部品交換後の作業」を以下に読み替えてください。

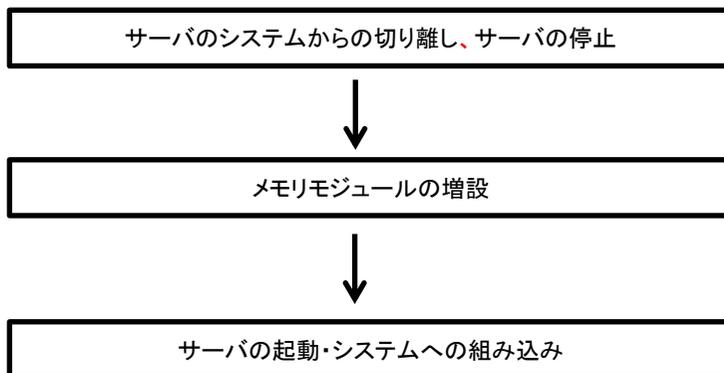
1. ID ランプが点灯している場合は、ID ランプを消灯します。
2. 交換部品に応じて、作業を実施します。
3. サーバブレードのシステムボードを交換した場合、ServerView Infrastructure Manager サーバのプロファイル再適用が必要です。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の[6.4 機器の保守後の操作]を参照してサーバのプロファイル再適用を実施してください。
4. シリアル番号等が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の[4.2.2.4 [ラック]画面]を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。
5. 交換を終了したサーバを起動します。
起動方法は「6.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守」の(3)を参照してください。
6. 「6.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守」の(4)に従って、保守作業の終了したサーバを vSphere HA へ組み込みます。

2. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware、ラックサーバ/NR1000 用) バックアップ・リストア、サーバ増設ガイド」(C122-0027-01)への訂正事項

■ 「第 8 章 Cloud Ready Blocks メモリ増設オプション」を追加してください。

1. メモリ増設の流れ

ここではメモリ増設の流れについて説明します。



2. サーバのシステムからの切り離し、サーバの停止

「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware、ラックサーバ/NR1000 用)利用ガイド」 - 「第 6 章 保守」 - 「6.4 ハードウェアの部品交換」の内容に従い、メモリモジュールの増設を実施する管理サーバおよび業務サーバをシステムから切り離し、当該サーバを停止します。

3. メモリモジュールの増設

メモリモジュールの増設手順は増設する構成機器により異なります。

以下の各構成機器のメモリモジュール増設手順に従い作業を実施してください。

(1) RX2530M1 のメモリモジュール増設手順

「FUJITSU Server PRIMERGY RX2530 M1 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル」の「メモリモジュールを取り付ける」に従いメモリモジュールの増設作業を実施してください。

「FUJITSU Server PRIMERGY RX2530 M1 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル」は、下記 URL の「MANUALS」内にて[PRIMERGY Servers]を選択し、画面中央 SELECT 内の選択肢から[PRIMERGY RX Servers] - [PRIMERGY RX2530 Series] - [PRIMERGY RX2530 M1]の順で選択してください。

画面に表示されるマニュアル一覧より「アップグレード&メンテナンスマニュアル」をクリックし「FUJITSU Server PRIMERGY RX2530 M1 アップグレード&メンテナンスマニュアル」をダウンロードしてください。

<http://manuals.ts.fujitsu.com/index.php?!=ja>

4. サーバの起動・システムへの組み込み

メモリモジュール増設後、「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (VMware、ラックサーバ/NR1000 用)利用ガイド」 - 「第 6 章 保守」 - 「6.4 ハードウェアの部品交換」の内容に従い、メモリモジュールを増設したサーバの起動とシステムへの組み込みを行います。

3. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (VMware、ラックサーバ/NR1000 用) 設置ガイド」への訂正事項

- 「2.1.1PRIMERGY RX2530 M1」の「**図 2.4 前面のコントロールと表示ランプ**」に以下の記事を追加します。

注)光ディスクドライブのモデルによっては、アクセス表示ランプは搭載されていません。

以上